



経済の活性化・くらしの向上を目指した県土マネジメントの推進

主担当部局：県土マネジメント部



スイムピア奈良（県営プール）



京奈和自動車道御所IC周辺

目指す姿

経済の活性化、くらしの向上を図るため、「選択と集中」により、地域経済の発展に寄与する基盤整備、災害に備えた強靱な県土整備、日常生活の利便性・快適性向上を図ります。



● 選択と集中により道路整備を推進し、平成29年度までに

28カ所

を供用します。

(平成27年1月時点完了宣言箇所)

● 浸水常襲地域において被害軽減のための減災対策を推進し、平成30年度までに

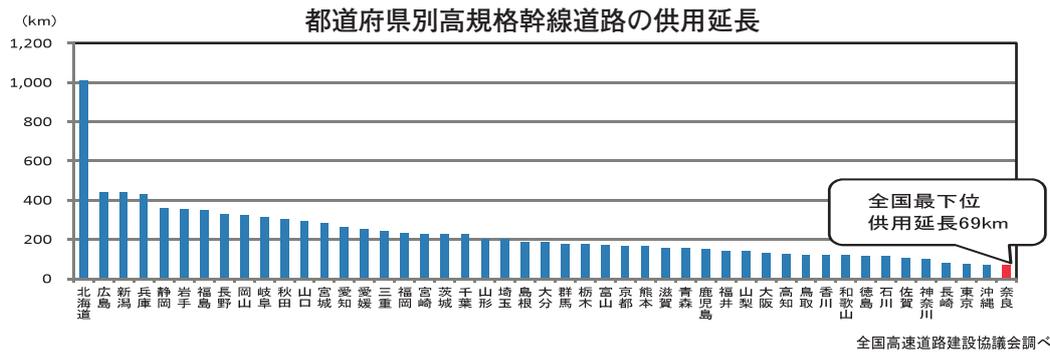
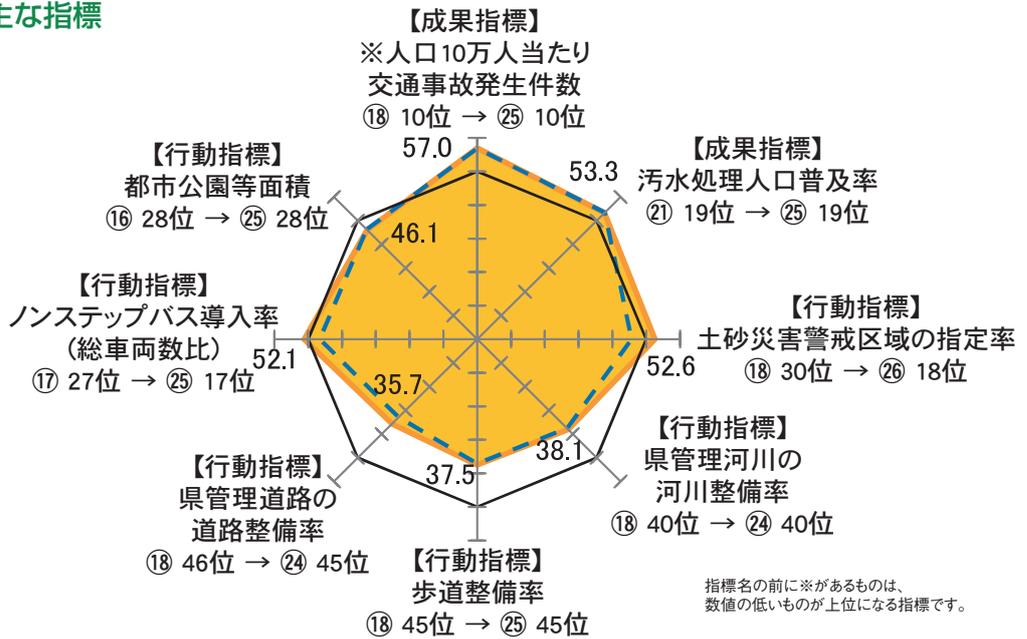
概ね7割の地域

で対策を完了します。

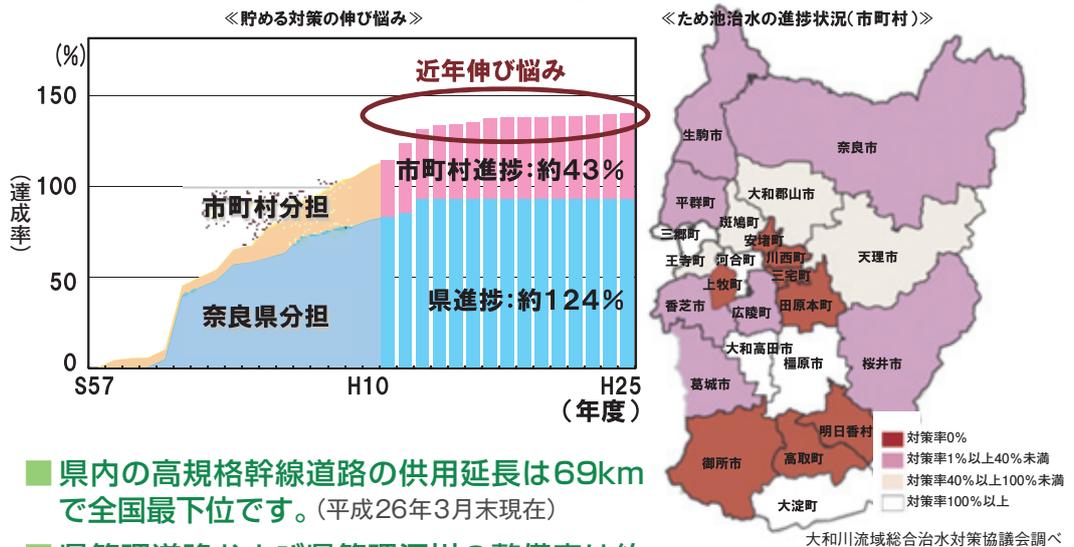
(平成26年3月末：45カ所(47%)で対策完了)

分 析

■ 主な指標



大和川流域総合治水対策（貯める対策）の進捗状況



- 県内の高規格幹線道路の供用延長は69kmで全国最下位です。(平成26年3月末現在)
- 県管理道路および県管理河川の整備率は約40%および約35%で、着実に整備が進んでいるものの、全国平均に比べて遅れています。
- 平成23年度の紀伊半島大水害や平成25年度の台風18号災害など、豪雨による大規模災害の発生が増加しています。
- 大和川流域総合治水対策において、県及び市町村が取り組む、ため池治水利用や雨水貯留浸透施設の整備状況は、市町村の進捗が伸び悩んでいます。

戦略1

企業立地の支援、観光の振興等、地域経済の発展に寄与する 基盤整備を推進します。

主担当課：県土マネジメント部 企画管理室

戦略目標

- ▶ 「奈良県道路整備基本計画」（平成26年7月策定）に基づき、**本県にふさわしい道路の総合的かつ計画的な整備**を目指します。
- ▶ 平成28年度までに京奈和自動車道の郡山下ツ道JCT～郡山南IC間および御所IC～五條北IC間を整備し、**県内の高規格幹線道路の整備を80km**となるよう国に働きかけます。（平成26年3月末：69km）
- ▶ 平成27年度に「**無電柱化推進計画（第7期）**」を策定し、**一層の無電柱化を推進**します。
- ▶ 大宮通りを中心としたぐるっとバスの運行やパーク&バスライドの実施等により、**快適で便利な交通環境の実現**を目指します。

取り組み

骨格幹線道路ネットワークの形成

企業立地の支援・観光振興に資する道路整備の推進

大宮通りを軸とした観光拠点施設の整備

奈良の魅力を一層高める交通環境の充実



ぐるっとバス



大和まほろばスマートIC

工程表

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
骨格幹線道路ネットワークの形成	整備の推進			
◎京奈和自動車道の整備促進	大和北道路・大和御所道路の整備促進 郡山下ツ道JCT、御所IC～御所南IC供用 御所南IC～五條北IC供用			
◎IC等アクセス道路の整備推進	整備の推進			
企業立地の支援・観光振興に資する道路整備の推進				
◎産業集積地へのアクセス道路の整備推進	整備の推進			
◎「奈良県みんなでつくる渋滞解消プラン」に基づく渋滞対策の推進	渋滞対策の推進、効果検証、対策箇所の見直し			
◎道路の無電柱化の推進	整備の推進			
大宮通りを軸とした観光拠点施設の整備				
◎奈良公園基本戦略に基づく事業の推進	整備の推進			
◎地域活性化総合特区指定による奈良公園エリアの更なる魅力向上	整備の推進			
◎県庁周辺・県営プール跡地の整備推進	整備の推進			
◎平城宮跡歴史公園の整備推進	整備の推進			
奈良の魅力を一層高める交通環境の充実				
◎ぐるっとバスの運行	奈良公園や平城宮跡を巡る観光周遊バスの通年運行			
◎市街地郊外の駐車場を用いたパークアンドバスライド	奈良中心市街地での実施			
◎登大路駐車場のターミナル化	ターミナル・付属施設の検討	設計	整備の推進	
◎大宮通りの修景整備	花壇やゲート等の整備推進			
◎ドライバー向けの周遊観光情報の提供	観光情報の提供			
◎広域的な自転車利用ネットワークの整備推進	サイン等の整備	広域的な自転車道等の整備検討		
◎観光案内サインの充実	整備の推進			



観光案内サイン（奈良公園周辺）



大宮通りの修景整備（二上大路南5丁目交差点）

戦略2

災害への備えなど強靱な県土整備を推進します。

主担当課：県土マネジメント部 河川課

戦略目標

- ▶ 紀伊半島アンカールートなど**災害に強い道路の整備**を目指します。
- ▶ 平成27年度までに、橋梁（計画更新）や大型道路構造物等に関する維持管理計画を策定し、**計画的に点検・維持補修を進めます**。
- ▶ 河川改修と併せ、上下流市町村の連携を調整しながら、ため池、水田等の治水利用を含めた「貯める対策」を進め、**大和川流域総合治水対策の推進**を目指します。
- ▶ 平成27年度までに**先行的保全施設（避難所や要配慮者利用施設）約60カ所の土砂災害対策に着手**します。（平成26年3月末：42カ所着手済み）
- ▶ **通学路危険箇所（約1,300カ所）における安全対策を早急**に実施し、**通学路の安全性を確保**します。（平成26年3月末：1,144カ所対策済み）

取り組み

治水対策の推進

土砂災害対策の推進

骨格幹線ネットワークの形成（再掲）

安全・安心を支える道路整備の推進

社会資本のアセットマネジメントの推進

リニア中央新幹線の建設促進（東西大動脈輸送ルートの二重系化）



麦谷川砂防施設（施工前）



麦谷川砂防施設（施工後）



通学路の安全対策（対策前）



通学路の安全対策（対策後）

工程表

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
治水対策の推進				
◎大和川流域総合治水対策の推進		対策の推進		
◎浸水常襲地域における減災対策の推進		対策の推進		
◎流域対策モデル地区における対策の推進		上下流域市町村との連携と情報共有、協議会の開催		
◎雨量・水位・流量情報のマネジメント		観測所の増設、データの蓄積・分析・提供		
土砂災害対策の推進				
◎先行的保全施設への土砂災害対策の推進		対策の推進 次期計画の策定	対策の推進	
◎土砂災害警戒区域等の指定の推進	警戒区域の指定の推進		特別警戒区域の指定の推進	
◎土砂災害に対する情報提供の推進		ハザードマップやインターネット等を通じた住民への情報提供		
◎大規模土砂災害の監視・警戒・避難のシステムづくり	深層崩壊メカニズムの調査・研究		監視・警戒・避難のシステムづくりの推進	
骨格幹線道路ネットワークの形成（再掲）		整備の推進		
安全・安心を支える道路整備の推進				
◎「紀伊半島アンカールート」等の災害に強い道路整備の推進		●阪本工区国庫補助新規採択	●国道168号川津道路供用予定 ●国道169号奥瀬道路（Ⅱ期）供用予定 ●国道168号辻堂バイパス供用予定	●五條新宮道路のすれ違い困難区間の解消（概ね10年間）
◎道路防災対策の推進		●速効対策の完了		
◎暮らしを支える交通安全対策の推進			対策の推進	
社会資本のアセットマネジメントの推進				
◎道路施設の老朽化対策の推進	第1期橋梁長寿命化対策の推進 第2期橋梁長寿命化計画の策定		橋梁長寿命化対策の推進	
		トンネル長寿命化計画の策定	トンネル長寿命化対策の推進	
◎市町村管理道路施設の老朽化対策の推進		対策の推進		
◎河川管理施設（樋門）の老朽化対策の推進	河川管理施設長寿命化計画の策定		河川管理施設長寿命化対策の推進	
◎砂防施設の老朽化対策の推進	点検・調査	砂防施設の長寿命化対策の検討	砂防施設長寿命化対策の推進	
◎下水道施設の老朽化対策の推進		下水道施設長寿命化対策の推進		
リニア中央新幹線の建設促進 （東西大動脈輸送ルートの二重系化）		三重・奈良ルートの早期実現及び「奈良市附近」駅の早期確定に向けた要望活動 地元自治体がJR東海から求められる協力事項の検討		



下水道施設の老朽化対策（対策前）



下水道施設の老朽化対策（対策後）

戦略3

日常生活の利便性・快適性向上のための整備を推進します。

主担当課：県土マネジメント部 道路環境課

戦略目標

- ▶ 市町村や交通事業者、地域住民等と連携・協力のもと、誰もが安心して暮らせるモビリティ（移動の利便性）の確保を目指し、平成32年度までに**ノンステップバスの導入率（対象車両数比）を70%**にします。また、一日平均利用者数3千人以上の全ての**鉄道駅**において**バリアフリー化**を推進します。（平成26年3月末：ノンステップバス導入率31.4%、鉄道駅の段差解消率68.8%）
- ▶ 生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を目指し、平成42年度までに**汚水処理人口普及率を98.3%**にします。（平成26年3月末：87.3%）
- ▶ 馬見丘陵公園では、平成28年度に、**チューリップなどの春の草花を約35万株咲かせます**。（平成26年度：約20万株）

取り組み

骨格幹線道路ネットワークの形成（再掲）

生活利便の向上に資する道路整備の推進

誰もが安心して暮らせるモビリティの確保

効率的・効果的な維持管理体制の確立

効率的な下水道運営の推進

都市公園の利活用推進



高齢者等が安心して移動できる歩行空間
（一般県道大和八木停車場線）

工程表

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
骨格幹線道路ネットワークの形成（再掲）		整備の推進		
生活利便の向上に資する道路整備の推進		整備の推進		
誰もが安心して暮らせるモビリティの確保				
◎公共交通の総合的かつ計画的な施策の推進	公共交通施策の推進	基本計画の検討・策定	新たな公共交通施策の推進	
◎高齢者等が安心して移動できる歩行空間のバリアフリー化		バリアフリー基本構想における生活関連経路の整備推進		
◎鉄道駅等のバリアフリー化		駅・周辺主要施設における移動空間の整備推進		
◎公共施設等に接続するノンステップバスの導入への支援		交通事業者等との協議、施策の推進		
◎過疎地域等における基幹的な生活交通の確保		関係市町村・交通事業者等との協議、施策の推進	連携協定に基づく奈良交通(株)との協議、施策の推進	
◎市町村のコミュニティバス等への支援		協議、施策の実施		
効率的・効果的な維持管理体制の確立				
◎社会資本の維持管理における包括管理契約の導入		対象の拡大、推進		
◎社会資本の維持管理におけるボランティア活動など、県民との協働の推進		協働の推進		
◎協定締結等による民間企業等との連携推進		河川の維持管理や災害時における対応について連携を推進		
◎県民からの要望等の分析・活用の推進		分析・活用の推進		
効率的な下水道運営の推進		検討・設計	施策の推進	
都市公園の利活用推進		施設整備、公園管理、利活用の推進		

これまでの成果

今後5カ年の道路の方向性を示す「**奈良県道路整備基本計画**」を**策定**しました。(平成26年7月)

平成25年9月13日に指定を受けた「奈良公園観光地域活性化総合特区」において、**通訳案内士育成事業及び特区支援貸付事業の計画認定**を受けました。(平成26年6月)

老朽化した社会資本の維持管理・更新を行うため、定期点検を実施し、平成26年度末までに**県管理トンネル130カ所、大型構造物約450カ所の点検を完了**しました。

県民の誰もが運動・スポーツできる環境づくりを目指した、**スイムピア奈良(県営プール)がオープン**しました。(平成26年7月)

知事が会長を務め、市町村長や交通事業者等から構成される**奈良県地域交通改善協議会**で、**地域交通のあり方について協議**を行い、平成26年9月2日に開催された第6回協議会では、**中南部地域における路線バスのあり方についての協議が完了**しました。(協議期間：平成25年2月～平成26年9月)

県営プール跡地について、**県のパートナーとなるホテル事業者を選定**しました。(平成26年12月)

奈良県通学路安全対策推進会議を開催し、関係機関と合同で計画的な対策の実施を定めた市町村毎の「**通学路交通安全プログラム**」の**策定を推進**しています。(平成26年6月)

馬見丘陵公園では、中和地域の観光振興の一拠点として、平成26年4月に**チューリップフェア**を初めて開催し、**約9.2万人の来園者**がありました。

「**奈良県深層崩壊マップ**」及び「**奈良県深層崩壊マップの解説**」を作成しました。(平成26年9月)

平成23年紀伊半島大水害における**大規模土砂災害の調査・分析結果**を「**アーカイブ**」として**保存・公表**しました。(平成27年3月)

先行的保全施設のうち、**42カ所の土砂災害対策**に**着手**しました。

国際防災学会「**インタープリメント2014奈良大会**」及び「**防災セミナー**」(県主催の連携企画)を開催しました。(平成26年11月)

主な指標の動き

■よくなっている指標

※人口10万人当たり
交通事故発生件数

569.6件
(平成18年 全国10位)



366.9件
(平成25年 全国10位)

全国順位に変化はありませんが、安全対策等の実施により発生件数は大きく減少しました。

汚水処理人口普及率

83.9%
(平成21年度 全国19位)



87.3%
(平成25年度 全国19位)

全国順位に変化はありませんが、市町村や県の積極的な下水道整備により、汚水処理人口普及率は着実に増加しています。

指標名の前に※があるものは、数値の低いものが上位になる指標です。